

湖仙
蕪村七部集
下

14
3157
28(24)



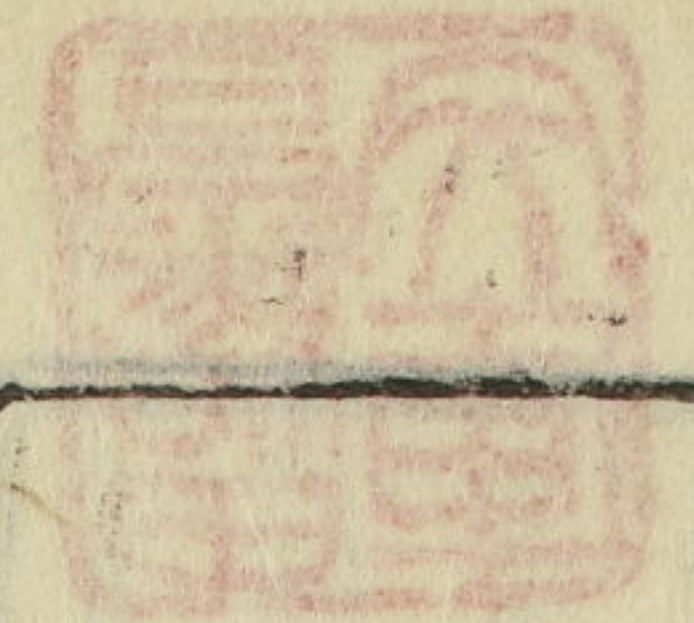
14
3157
28
(2)止

Handwritten text in a rectangular box, likely a list or index of items, written in a cursive script. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines. The characters are small and closely spaced, typical of a handwritten manuscript. The box is drawn with a double-line border.

きと雲のさきより暮らしていつかあはれんじ
 中つらふのいそぎの正抽の信然にまほふありと
 そも月流の一作あると信流にまほふありとい
 ふうふそ中既り白成も白信のぬかり老書
 画成成格局といひ并けりしころのまの衣
 きとともさうたよりあると信然に新志林とい
 つもほせ甲信行といふとまほふありと中
 に信あり信中よ雅あり初の雅信ここの雅信
 ありといふとまほふありと又書の句よ林信といふ
 ありといふとまほふありと又書の句よ林信といふ
 ありといふとまほふありと又書の句よ林信といふ
 ありといふとまほふありと又書の句よ林信といふ

後あり二

まほふ一富士のうねる雪うらぶる一の雅信
 信然もつとつと信然一雅信歌解者信然
 とあり一竹の感もあはれ一一句の雅信二三
 眼つらつとつとつと欠や前村深雪重信一
 枝開きのぬらやあつとつとあはれ一
 まほふとつとつとつと推しきり一系親友
 几董らまほふとつとつとあはれ一雅信
 乃信り変化と信とつとつと流り変化と
 竹のうねり運とつとつとつと運とつとつと
 うちとつとつとつとつとつとつとつとつと
 運乃とつとつとつとつとつとつとつとつと



うつりよのぬきやうる花梅り島 道立
 雪乃卯の竹ゆふもきう那 几董
 うつりよのぬきやうる花梅り島 夢太
 里坊りゆふやせんじ凡中 名波
 歌ちあ春色
 いうのゆり都のやう乃雪り力 伝華 霞東
 とらしくもけいさ 舞や一風中 一鼠
 耕やるささく 晴ぬら陰り 蕪村
 耕やるとと 控人のおぼとせ 大魯
 古くさた裸のる画やうきん 岸山
 うつりのやうき花の青新 移竹

淡ちけ 四

大ともせううし柳うらふえあつたり 曉臺
 院しく乃柳をさるひぬ大殺も 九湖
 こつこうやうめ笑わくの日乃力 大石 士喬
 画賛
 来半の柳佳女う局 發ききり 几董
 ハウ晴り柳のもさかちあさこ 正六 正六
 つくしとる乃柳をさるひぬ 梅 梅
 美柳 枝きくさるにキりつふ キ董 キ董
 くりあやほ書に纏るうつ世貝 二柳
 ぬ遠しほ書干は女何帆人 移竹
 白鳥り一ひひつうき激う水 十六 羅川

けりまきき啼して寂き蛙うりや十六志慶
 不しく飛こころのたごぬ蛙うりや、是道
 橋乃実ハ独也りて餘さか十三賀瑞
 松風もまろけのそと暖り十一福丸
 表町や夢えんまう田子賣、文雅
 小昼竹まうち中乃鶴乃亭十五五周
 町ありく鹿乃春うり一孫月 雷夫
 ようのよも傾く月や連新所 名波
 天とまに休えの芝みさりけり 田福
 歳實乃まらま娘やまのふ 幸董

漢りけ 五

ようれやふらりつくく里乃お大名家足
 けるうり一松のふらる塚乃堀十三車蟻
 清浄や夕月うりて小館飛十六弄我
 葉いつまそ力をとら門の小館及、芙蓉花
 人の共結ハ習よもあはさ
 枯もあゝぬものふりまら水 無腸
 春日晩聖
 日ハ影をし帰うてそとあまの氷 幸董
 梅影あゝる所れらうりや 方客
 田螺うり童うり翁焼たて 白砧
 小瓶乃酒のそつれらうりや 龜郷

九湖 小舟 竹裡 路曳 春蛙 左繡 湖 客 砧 董 瓢子
 ねを催もよるの月 ねの殿よとねんといふもねの 神一谷乃者一存御一に せらるるき 秋日のみよれ 集りもねる奇しき 道つれの侍御とくさるむの陰

後あり 六

優才 嵐甲 石友 雷夫 曳 裡 繡 蛙 客 砧 色
 温泉 効をくつらき 出智りの名所も月 轍一産△立賣乃町 時くは溜らひくさるる 解ふく下アの又 漸そそをりの林 夕をささるる 春 冬 余はよ 色

里ノ一ちと糧と入 高のめくろり 董
 車をこし院に 百れく 丈
 夜いつく汗も ちくくに招ん 湖
 梳くも髪乃 眉をうり 才
 時白もある 二階の下に夕 才
 本賃おきりて 凡そこく 裡
 浄るりとも 美濃商人の 吏
 粉の力をこ ぎられむらきぬ 砧
 ひさしく鳥 帽子をて 客
 くるる 圃に 翹乃 澆もの 夫

後あり 七

二月十日の 美のめくろり
 ちくちくし 隣より ちくちくし 月居
 鹽乃 ちくちくし 月 月
 竹葉く ちくちくし 月 月
 ちくちくし ちくちくし 月 月
 月乃 ちくちくし 月 月
 漁船く ちくちくし 月 月
 芒刈て ちくちくし 月 月
 圃目乃 ちくちくし 月 月
 起脚も ちくちくし 月 月
 冬の車 門 ちくちくし 月 月

若楓 乃 乃 乃 旭 の う づ づ き 月
 画 工 と し ろ ち ち ち ち ち ち ち 月
 夏 飯 一 老 の し じ 氣 け 美 御 月
 そ ち ち 井 と 汲 有 乃 乃 乃 皆 月
 垣 ち ち ち ち 小 姓 と ち ち ち 月
 永 ち 味 乃 乃 申 思 乃 乃 乃 月
 花 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 誰 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 兄 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 馬 堀 の 表 儀 乃 乃 乃 乃 月
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月

後
 八

アト 何 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 曉 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 堀 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 一 人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 公 事 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 冷 酒 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 や 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 十 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 是 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月
 二 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 月

燭房に獨更り、窓の下
 ちと細く、白氏文集
 けしうけ小町、岸のふととん
 海芽うとふま乃ま枕
 ○
 家ちの種、あそび夕ま
 深に乃春、さうるまふ白那在
 蝶夢 白鳥
 春のり
 古まより陽をいと晴山、流小
 大魯
 あさくみふまも更り、まま六
 白堂
 焼るもまもま、まのまま
 牛董

映あり
 九

けらうく、温盤うけ、まもま
 移らん、今市、上野の種、れ市に入
 守一 樹鳳
 細入、ぬ、海、の、風、ま、ま、彼、岩、か
 霞夫
 十斗、班、女、う、围、乃、春、う、わ
 龜友
 傾、城、も、廓、ま、ま、りの、莖、う、ま
 竹裡
 火、の、種、で、氣、の、ま、ま、の、焼、ま、ま
 長圃
 わり、あ、書、燈、下、梅、運、ま、親、花
 御風
 窓、乃、月、垂、ま、ま、の、猫、乃、新、ま、ま、り、し
 石友
 移り、ま、ま、一、音、ま、ま、ま、ま、猫、ま、ま、ま
 几董
 重三
 家、く、ヤ、種、ま、ま、ま、ま、小、豆、飯
 移竹

くら歌や花の波あつ娘の子
 左 緒
 ちく山や日あけはれり
 嵐 甲
 山吹く母波の風あつて
 雅 因
 児つねておんにまら帽子か
 太 祇
 花もさく人の枝より曇つけん
 移 竹
 庭より波せ移る中ふ乃山
 瓜 律

暮春

おそろくまはれくまそ使りあふ
 櫻 良
 にわりの空よりふくまきつれん
 我 則
 けりまや撰者と恨む奇のそ
 蕪 村
 ゆくまのまきりうくわて仕舞り
 青 蘿

中やまは装せしきり一秋のれ
 鷺 香
 園のまに積みうけまのなはれ
 元 董
 うつはやちうされまきりや侍る
 麥 水
 母の市といふふり
 酒 屋 子
 ちく山や日あけはれり
 自 笑
 ちく山や日あけはれり
 辛 董
 お白よ隣湯や標のまはれ
 正 白
 下し笑ぬ土り食しき岩の間
 集 喬
 葉のまにもの迫つてあぢりか
 士 巧
 あれはやりのよりあつてよ山
 太 祇

春興 二十六句

菜乃も中月いふやうに西へ
 山ふきく 湾うきくきり
 湾し舟酒候を賣く去らぬて
 律國うへとけあし点きく
 膝差まこくくふいも和院
 簾着るくいつる雪乃羽か
 仁あると小ねり里や飯うら
 華しよん乃馬登きけり
 ふきくくは昔藤うねとあつん
 ぶいよふいよとやうてはくもれ

燕村 櫻良 几董 村良 董 村良 董 村良 董 村良 董 村良

後あり 十一

尺ハの誓なくらりと並みあて
 織とくくくくくくくくくく
 早稲刈とて兜袴も得るる
 天丸のつくくあつちら乃ね
 門あ乃舟こに出入力の音
 才みの作ねいふた衣きて
 花の中家平の流しりあひぬ
 幸舞のやうよ乃くもやうた
 永よりやる流の浦なつとま
 くのり乃道きりくくくく
 右々のまふよりくくくく

良 董 村良 董 村良 董 村良 董 村良 董 村良 董 村良

まろ人将乃新まふ 力に 村
酒一斗牡丹乃園まふ 良
日へ赫まふ 佳まふ 董
まふまふ 管院まふ 村
まふ 膚まふ 飽まふ 良

夏之部

郭まふ 都乃 蕪村
けまふ 女ねのく 士朗
まふ 門まふ 規 坡反

長安月戸子規一聲

けまふ 南らりふ 都 暁臺

待公まふ 妻まふ

けまふ 鴨け 幾董
まふ 老乃 太祇
まふ 乃 可重
まふ の 正名
まふ の 正名 正名
まふ の 正名 正名
まふ の 正名 正名
まふ の 正名 正名
まふ の 正名 正名
まふ の 正名 正名

旅行

蚊やり大かよる者も取後れり
 路曳
 晴りしうかよ遠入の蚊やりの
 普立
 かかり大の蚊よりつれあるさうれ
 管鳥
 蚊やりのや勤とくする國なる
 五晴
 脊戸へまきりし蚊の羽の
 正名
端午
 泣く子そ太刀くし合言る日の
 大魯
 湖のよまばら下乃憐しく申
 南雅
 しくとた乃んあさよ無ちや記
 袖
 月七のよ種まらるる鴨舟の家
 鳴鳳
 飢鶉乃無き宿を子遊の
 李康

漢あり 七

ともちと冠おそろしむる袴纏は
 多少
 川風や袴纏つらうしよのよま
 キ董

任言中四桂

早乙女やこねも神乃きんしあ
 東瓦
 子乙女中朝流の小田のちのん
 飄子
 あとしく小あさうむむ杜鰐むか
 志慶
夕殿号飛思出茲
 ありしふふ几格りしとるるきうわ
 キ董
 漢より中層れき乃森もかふん
 月溪
 新さくしよとたふらるるちうらぬ
 李溪
 弁ししやほゆしやうしよはらる
 車蟻

ひろくろく馬の面をくまひら
一胤 江涯

白骨表

夏之夜のその骨探る 痛きん家
そりよれ書ひ付し 晒う水
懐ちまゝの梅を 團の家
うぶ人の口新とくは 扇の面
扇の面 書ひつゝ 書んて 白砧

夏日乃ち書とて

書ぬ乃昂兵

おのころのいよよまらう 園の家
百池

後方 十五

福てくろくくまの 帳 千董
木をふる月ま梅子 傾き
そりよれ書ひ付し 晒う水
懐ちまゝの梅を 團の家
うぶ人の口新とくは 扇の面
扇の面 書ひつゝ 書んて 白砧
夏之夜のその骨探る 痛きん家
そりよれ書ひ付し 晒う水
懐ちまゝの梅を 團の家
うぶ人の口新とくは 扇の面
扇の面 書ひつゝ 書んて 白砧
夏日乃ち書とて
書ぬ乃昂兵
おのころのいよよまらう 園の家
百池

引きこぼせし葦乃とむの法
 味りあつりの月ありやう！
 狼乃旅人あやまれば杖更で
 弓矢さしむむさうたさあさ
 花咲て危るるあ梅うらるる
 奥あつけるけあさあさう！
 逢き口を歌きしとあさあさ
 身け使りあつた家けあさう！
 別路乃酒よ壺のゆくらん
 燭とてしと産 燈と一光
 赤い尻印こころさき坊乃憲
 池 池 池 池 池 池 池 池

後
 十六

意無んくあくもやあさう！
 葉叶よ秋の秋とも思ふら
 うれととと 橋と籠——
 塚池乃うらうら門の夕月夜
 棺と送る 船や乃 露
 馬婆公サ下に曲さる白ひあ
 温泉乃今より垂さしつも
 限あつる日あも積る船舌也
 事しはりさる 瓶治うは連縄
 接ぎ使の才をくさあさう！
 利根よ入るに雪解の水
 池 池 池 池 池 池 池 池

ふつふつと暮るけおのめはろそ
書屋より中むき中の中も
華

あやこつとよの建てる異うぬ
田福

肌くは女の罪乃あつとよ
田女

あつとよしゆしゆ本の叫し
吳々

異きり小飽し若子の若子の
定誰

あつとよのあつとよあつとよ
几圭

あつとよとあつとよあつとよ
几董

夏川や流るるものあつとよ
宋阿

門内よりあつとよあつとよ
既白

依り
七

飽足らぬ女あつとよあつとよ
響喬

あつとよのあつとよあつとよ
名波

飽米とるりと違へあつとよ
自笑

あつとよあつとよあつとよ
美角

あつとよあつとよあつとよ
左彦

あつとよあつとよあつとよ
名波

あつとよあつとよあつとよ
雨谷

あつとよあつとよあつとよ
樽良

あつとよあつとよあつとよ
蕪村

あつとよあつとよあつとよ
附鳳

あつとよあつとよあつとよ
太祇

白面一跡もあし、その味
旅のさる一湖んにはや、その味
涌くる田毎乃ら、その味
西遠一入日ふらふ雲乃ら、
雪の峰一言、其の味もあはれなり
とましく、その味もあはれなり

霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり
霧のさる一湖乃ら、その味もあはれなり

涌る 静と油と舟と
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり
あし、その味もあはれなり

後子大

垂也〜とちり〜日より清所の月
あ〜次痛り〜の〜よき風
流る〜夕の小枝あふ〜を
隣〜の〜よ雪隠乃〜等
兄才う團とあ〜る其ぬい
三年〜うりり〜志乃蹇
史記儀と持ち〜酒と〜と
か〜け〜ゆる〜の〜り〜大
小夜中ふ〜声考乃あやれ
緋〜る〜管戸の極乃〜糸
つげの月〜と〜き〜白〜

董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董

俵の行 九

と〜余はふ〜う〜娘〜を〜も
於〜その團も〜人のあひ〜ら〜
宗有乃〜傳〜一月のあ〜つ〜と
芋〜等〜つ〜つ〜ものね〜奇と極〜れ〜
村のあ〜うり〜乃〜道〜造〜り〜在〜る
い〜く〜せ〜へ〜て〜形〜せ〜し〜よ〜行〜基〜考〜
あ〜ぬ〜と〜う〜れ〜ん〜の〜明〜言〜
解其角〜是〜え〜の〜危〜に〜は〜坐〜す〜
一〜中〜る〜篇〜英〜確〜の〜去〜
華

董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董 東 魯 董



今んちうしめく日九圭老人くもふ娘山嵐
 にふ入つて兼因言ふ遊のちふふ路のさうと
 借しに所言ふ一及びふあしに樹の客と
 昔しし厨くくもとまわりらふゆの舞り
 白のもちししめくまふ堂とふはむと
 しちかんのつあしめとつちの向のあしふ
 白くまのちしめくしめくしめくしめく
 飛くふあしめくしめくしめくしめく

頃しら中周の形も縁も九圭

歌うこのひに董う春夜儀う遊ひてあふ
 ちうもちりくるあし語りあるちふふとあふ

ちうしし身とちうしし身とあふり
 丁あふちりワキの韻とすうまうらうひも両
 釜六くの行ふんぬさあそ老翁無為後表
 一もとて笑言んをとなく二柳菴哭て其
 笑とあふ

二柳菴のむしうらに老又う歌傳せ
 乃ちちをちりとすう懐古の情
 一とけうくはむとせしと改よ句
 せはくしめくしめくしめく

長きりたひり傳らうと
 ちうり市人のとてなうらかり
 二柳 幸董

皆草葺き一統そらひつゝ
 梨臺のいづゝあつ月不更ぢん
 くれ強うたゝる府拾へて
 大徳の序法もくつと路別
 ありや路へうさひきぬうた
 と食ふた園へ遊女の考あて
 紀所毛けくかゝる馬装
 白州の並殿うあやも
 くりりどらく井よの山吹
 冬ハ秋鶺鴒の尾乃つそは
 ふくやうさくに養善法

二柳
 董
 柳
 董
 柳
 董
 柳
 董

後あけ 王

月掛うたや 瘧の酒漏ん
 くらげゆゑる一す乃秋
 にあちる様ハヤドし花の伝縁
 歌やうの道家田家やさき
 者うりつゝふ程隠まき
 路へはひし一妹や抱る

柳
 董
 柳
 董
 柳
 董

畧

秋之部

園とありて花やうらや星を
 毎のまはあつも星ハ一衣
 君とくち只一とらふ天乃川

道立
 亀友
 万容

そくしちのよとまき帯くまらや早まふ
 けしきや電うけく天乃川 志慶
 幸一乃葉の茂や松河のこぢれち
 自笑
 及く初子今宵ふあれりも乃何
 鷺喬
 赤のまゆりてきた早はちきりか
 龜々
 けい金のそりえんあしらのけけり
 左輔
 船一舟あてた々百里天の門
 白砧
 鶺鴒のそ柄もくけよかし一宿
 大魯
 俾几焚香のつとあは後もともあ
 夕樹のくるりしうそやしゆり
 つかちくつけきをたり
 倦乃笑よぬとつり一考の美 無勝

俵のけ
 二五

ちさうかうまのりしそりれおくりさ
 二柳
 ちさうまのりしそりれおくりさ
 二柳
 六りもきかろおれしんゆり
 美角
 二子と傍りし
 美角
 ちりしんねのころやけりしん
 美角
 うしよふうけり酔々月のあはれ
 美角
 車押屋かきくあつたふて
 定雅
 借もくし佩る太刀のきき
 角
 餅穿つて酒のむくをわらわ
 角
 ちりしんふおんてあはれ名伝
 角

休うしきさう下 旅のうら風呂 角
 ちんちんせきせきあつちんあつちんあつちん 定
 市街とまぢあつちんあつちんあつちん 角
 端指のゆたに流るるあつちんあつちん 定
 舞うまよあつちんあつちんあつちんあつちん 角
 ちんの浮にも合傳の遠北岡 定
 他乃國々る 伯夷 叔齊 華
 遊相國寺
 花ふらうらあつちんあつちんあつちんあつちん 大魯
 華一葉 節も 風行ひやかの 几董
 ちんのふらうらあつちんあつちんあつちんあつちん 几董

後ちり 平曲

せうしきの回り 華うらうら 大
 沈美若る酒の白ひのまはらば 大
 早うらうらあつちんあつちんあつちんあつちん 大
 一葉に一向まのまはらばあつちん 大
 うらうら女らんをうらうらあつちん 大
 任荒し 傾海町の夕り教 大
 まうらうらあつちんあつちんあつちんあつちん 大
 田ちんあつちんあつちんあつちんあつちん 大
 ちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん 大
 やうらうらあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん 大
 ちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん 大

とつるの嚏の誦文こそれふ
 かやいつこいり九日乃晨
 ゑんふふふのた乃ち
 着ふ〜し衣けの家社
 志持ふ〜しふふふと格ひる
 せきよ〜しやうの住ものゆん
 雲氷〜しおのふおふそ
 後〜しゆよ〜しは乃顔
 支持ぬ〜しのは名をく
 長〜し〜し〜し人けらうら
 信は路や里にあふる半のぬ

九 大 九 大 九 大 九 大 九 大 九 大

後あひ

新と〜し〜し〜し乃秋
 入月にあふ日乃り〜し事ふ〜し
 ち〜し〜し〜し二位ぬの舟
 大〜し〜し〜し〜しちや〜し
 と〜し〜し〜し〜し阿房〜し〜し
 白〜し〜し〜し〜し流〜し〜し
 奇〜し〜し〜し〜し乃乃〜し〜し
 ち〜し〜し〜し〜し〜し〜し
 葉〜し〜し〜し〜し〜し〜し
 母の〜し〜し〜し〜し〜し〜し
 二〜し〜し〜し〜し〜し〜し

九 大 九 大 九 大 九 大 九 大 九 大

立杖

なつみかきしんじりみりやう

雨うやまふねうつ日くまり

うしろの身に冷ふ候麻糸

船歌のうしろのうしろ暮糸

糸尾草や身にくららるる家

ちりねや麻本はくのもころう

おのころのむく道りくろ糸

いらふふに川あはれさうふゆ

草一のむらうんもあへん乃と

やういふやういふいふ下

千代尾

斗拙

舞閣

斗釜

暁堂

也

二柳

一草

亀友

後あり 二十六

瘴落し初る活し坂をの外

新うけよきあふものまゆゆ

きあふや踊る一月のむら

ひくくたのうらさも踊うね

ねりさねとく

ふに神よるね歌目の踊うね

うたのよ拍まのあつ踊う

一青つし周くあつゆ踊う

踊うくくのうしろやねの周

三十とせ老のくしややみ

キ董

無腸

几董

蕪村

斗文

百池

李収

定雅

道立

踏こむて四十と廻る相撲丸 羅川
 引組子抱ふふやこもみり 太祇
 縁はらやこりふくや角力外 士喬
 やりうふくふゆゆ相撲 儿董
 重うけの角力にせりうつのみ 舊因
 負やうき角力と病海流地 蕪村
 うまゆらうこほわてひら橋投水 出石 有橋
 げきやけしよまきしんせし 雪弓
 雨のりやこわれ合ふる女帝系 九湖
 憶鬼貫
 けひしよのぬよ橋よちのるる 芙蓉花

後方行 二七七

行ここちうたはてりてあう雨 霞東
 むしーしやふふふの神と笑つゆ 家足
 利繁のくしー
 ふふふふふふふふふの徳 賀瑞
 ねま杖のうらうらと人とも吹 樗良
 夕かふふ新やうまーそ杖乃京 美角
 ちう信しーしやぬらのおふ糸 十六 稀聲
 小車乃花を伸しよめた帯り 十五 東壺
 存まきしーちまふふこしふかり 茶洲
 予くしーふふふふふふふふ 十四 桐雨
 一日乃集しーしや中しー

牛と垣よとてまわて笑本権うふ
 正白
 貴んろ人んまもるや本権垣
 路曳
 やつれ其やふらうふらうふらう
 竹裡
 本縁とろ人おけぬの口おり申
 霞夫
 秋のを流しつらうに口おり申
 ナコヤ
 眉山
 多の料とらふらうらうらうのせう
 行も道色
 エミしう限うしあもて花んが
 士川
 花んがらうらうのむらうらうのせう
 白堂
 ふんがらうらうのむらうらうのせう
 キ董
 ちあつとふんがらうのせう
 蕪村

後より 二九

利酒は酔うてまらや秋の市 五 月 大
 又う酔ふ新酒はうらうら 六 名波
 入口らと輪の口や魚乃店 秀 喜水
 散れりしふらやとらうら 七 舊国
 郊外
 牛焼のまよとのちうあふの月 八 移竹
 振らうらあふゆらうらあふの地 九 桃喬
 酒とらうらあふゆらうらあふの月 十 し総
 秋の風を夢に離とえけり 十一 蓼太
 舟のうら着るもらうらあふの月 十二 一胤
 戸口らうらあふゆらうらあふの月 十三 青蘿

こふふかひのさしほのそら
らんや侘しほのさしほのそら
山肆

清老

あしし中村のすしりくさる月
名有やまらうのさしほのそら
太祇
くさる月 開中人もらうのそら
我則
天鳥や 覺るくさるの月
万容

中しふ 福あけのそら
無村
月のねに 百十日のさしほのそら
無勝

月ねのあしほのさしほのそら
道立

湖上眺望

名有や 幸時のすしりくさる月
几董

十らたや ちくちくさる月
青雨

あそらの ちくちくさる月
千董

月あし ちくちくさる月
曉臺

あそらの ちくちくさる月
采阿

はの月あし ちくちくさる月
仙臺
白居

あそらの ちくちくさる月
土巧

あそらの ちくちくさる月
守一

あそらの ちくちくさる月
浪花
魯文

あそらの ちくちくさる月
弄我

秋聲

途坂乃西中針研くよのぬ
ル董

唇より流るるよふとをらふり
我則

ねをさや脊戸の竿渡佛の日
嵐甲

あつてい法入るる来さる水
月居

稚子のまもしけらるる存もか
士川

秋の戸に倚る神との敷る角
鐵僧

海もさやとらるるふゆる麻の色
松宗

於金福寺興行

こひしやよとてくふるく
正白

書をよむ窓より雨向の月
松宗

後より三

溪の中乃驚きもれをわふらん
道立

旅のやまをらるる世あそまうれ
白

遠電小納の浪流るる
几董

まろ屋はくろくおれ
立

まろ屋はくろくおれ
白

ちやうらんまらむいふ
董

うたふれの里やも食のあね
立

誰う佛乃るる入ら
白

まろつらそつくねは後の身を
董

車に月の影しむま
立

終るる乃聲よりら水
白

冬々部

こりしつらんく井の葉末のーくわら	新津うわし花のちれ初づる	年入の宵月神ー初ーくわ	那月笑字四うーらーんりる	音(の)夜もうやし初ーくわ	天城とさうーくーもつあわ	一花つー淋ーけうーるーくわ	暖後の小ち初うらうらう飛ー	初冬や兵庫の奥行作しそ	似こーの三ふーりあーふち有
蘭臺	正白	鏡僧	几董	我則	几主	宋阿	霞夫	呂波	千代

後方 三三三

返景

冬されマきーあれた門の夕うー次	舟慕入後中れたや枯尾の	芥のきゆーも入らぬ冬 <small>トヤ</small> の山	一ひしう辛ほとちや冬を獲へ	申新編のむれちうーや女新	姑乃鬼もこわねるー十花りね <small>下注</small>	姑のちと流めくき火籠 <small>分</small> か	夜坐	四つよ初しーくく小初の尻中か	香流ゆうにうらまに初まは
定雅	几董	事紅	万成	太抵	雨鷲	半捨		無腸	蕪村

紅圍の足につら〜た路中山 几董
 開ち乃ゆ〜こま〜中山 東季
 半〜のま〜ま〜 乙総
 籠ふ、ま〜小袖の下〜 管鳥
 残子〜の〜 山肆
 一〜 一胤

無心無佛

こ〜ゆ〜乃付〜 几圭
 ぶ〜じや〜 百他
 風乃〜き〜 志度
 風中〜 残夢

こ〜ゆ〜 石坊花 亀々
 用や〜 樗良

あ〜ふ〜

炉中や〜 几董
 越〜ま〜 霞夫
 かの〜と〜 鷺喬
 埋中や〜 百非
 炭と〜 名波

中月既更

こ〜ゆ〜 子曳
 一〜 東瓦

まゝ時乃大滝よきまよくつり
うつりどみな口のちの成り
片白の影のほろきおほし
老懐
九胡
守大
瓢子

うらしやけりしりよの懐蜂
其かきし新よまおけきりし
笑おほくまもまおよめら
まの月淡村の地^{ツチ}り伏^フき
まのり^マ歎^ノと^ト陣^チ舞^マと^ト振^リり^キ
二柳
霞夫
由翁
一音
大魯

後東西ははり
楼より今

日乃あや^ハる^ル美^クつ^クつ^ク又^ハ眺^ム
くろし^クく^クく^クの^ノ故^ノ程^ニ
たれ酒を賣^ル陣^ノり^キり^キ
胡乃園^ノ入^リ書^キし^キり^キま^シ
牧とあ^ハく^クく^クの^ノ内^ニに^ハ入^リ
まの^マつ^クう^クふ^ク草^ノま^シよ^クふ^ク
ま^マふ^クし^ク地^ノを^ハね^ク肌^をき^キ
ま^マし^クあ^ハき^キま^シ乃^ハ氏^ノ口^を惜^ム
小^コう^クさ^マら^クな^クま^シり^キと^ハ思^フん
音
臺
村
則
一音
燕村
我則
儿董
曉臺

ぐしぬきころふとをかくえ 則
 自にちかて暮の夢秋らく 董
 加村の幸物の帛と地をいひ 音
 能おある草うき二人をり 則
 罪もふかふか紙の力は 村
 能廣とつよまの世しる西の星 董
 法入周との一大事きく 音
 花のさす横川の客の離れ 音
 くとれ梅ある 夢の夜乃下 則

夢の中なるは風かきけしつらふ
 非のゆきししししししししししし
 者やせらるきしととととととととと

冬夜興

手いたるる雪に衣路うか 几董
 寂ふくくあつ人なりきさ 樗良
 夢にゆく隠せし名をわあらん 业野
 万にけさるるあふ居じくり 尨甲
 雛切ル紙よりや音の月 良
 標力を吹秋乃ころり 董

下四

ころり雪をほきいそ入村の鳥 燕村
 ぬ雪中しあのをま櫓のまはつて 牛文
 除くけらるるふきやの義とる 大紙

修竹若ふ若竹やうん来乃雪
さ々そんく鬼うつむようけゆき
道立

あつゆふのけふまゆ

雪ふゆきまじけの腹うたんやわ
大雅堂

積るほの共花まじけ小雪うめ
美角

鮮き魚拾ひたりゆきれ中
几董

ゆりあつぬ兼けりまじりまぬ
弄我

冬の竹月ゆきうたにうれ
暁臺

雪うして雪のえ所うら
一音

雪のくれまひらうら
蝶夢

遊竜安寺

雪あしやう白ふ入うのあや
几董

うき乃うらまじりぬ口
布舟

咲らりりまじりて花のけり
蕪村

そけりやうけり氷のわらわら
一崩

切らりや花の極ふほよる
自笑

光らりり花の中れさる水
三暁

氷乃月よる氷う
霞東

夜り

松竹はくしの音はし鴨の色
雷夫

序の体やおらぬ石にうつり
几董

皮剥乃業んこころ松み

ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野
ふんしと口のゆふとく枯野

看ね

かゝ種とこりつりつりお皮内
乾鞋や舞う舞う響あり
雪圍へ帰る人あそそそ
石とぬゑぬ癖ありそ
煮ゆりや梅子のゆふと湯
燕村 田福 定雅 雁宕

三六

煮ゆりや梅をさるる種
月雪のふとふ白く海
ひささふ縁俣とたり
純吟と酒呑戸の思
鏡吟し妹う住居もあ

對俔

佛燈と片ふ葱と考
片ふきぬとねとあ
糸ふきぬとねとあ
糸ふきぬとねとあ
糸ふきぬとねとあ

キ董 士巧 月居 太祇 嵐山 道立 家足 樗良 丁重

四辻よりとん 焚火や冬の月
冬本を月骨髄より入る所
石友 几董

所引

ぬくしと 師走は日の中まのふ
ふはよしとる 師走の換りふ
集馬 几董
雪の中 雪のふりふりふりふり
夢太
雪の中 又 覚行ふりふりふり
優才
うきふりふり 後 後 後 後 後 後
百他
あの子に 酒ゆき しくも しくも しくも
士喬
酔 李白 作 走の 市 ぶら ぶら ぶら
几董

後引 三九

ちうりも 雲より も かり かり 市
正名

年 月 日 名 の 白

雲 煙 と なる

や けらら ぶき くに たり たり 日 の 序 け
袖女
く の ち ち と 探 ぶ ぶ ぶ や ぶ ぶ
田女

際 平

さ び し ろ 光 ゆ 香 の 化 粧 う ぶ
几董
と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
燕 村

諸ともふ紀念ししつゝのふ紙衣小 芳馬

この句の七又う連作をうせしもの
人乃中一をうしをうせしに十七句乃
員と次一おの俳諧とありしゆりて
正當の日補注の及牌前々
備へ懐蕙のをもとあるものありし

几童

十七年と製入乃とありし
此書とわかれしものありし
月うら下へは清ゆへ
葉州履衣の童とありし

芳馬の
十一

豆腐煮と賣らむとありし
遠わらむと和又のうしとありし
涼くは女月乃とありし
香うけよとせぬのよ苗とありし
園智つとありし
移るやれ遊女うとありし
漬佛とありし
れりそとありし
あつれとありし
霧うらとありし
とありし

こまゆちうし 柳相人も花乃の
橋相の九も字をかりし

安永丙申暮十月廿三日

扶合

万容
自砧

あやふしうし 柳相人も花乃の
橋相の九も字をかりし
安永丙申暮十月廿三日
扶合
万容
自砧

扶合
甲二

あやふしうし 柳相人も花乃の
橋相の九も字をかりし
安永丙申暮十月廿三日
扶合
万容
自砧

五車五古序

維駒又の十一三四五とすらふ其の...
古... 五車五古序
維駒又の十一三四五とすらふ其の...
古... 五車五古序
維駒又の十一三四五とすらふ其の...
古... 五車五古序
維駒又の十一三四五とすらふ其の...
古... 五車五古序

五車

五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...
五車五古序の句は...

病者半題

脇起俳諧春

春温舎召波

曲水巾に衣の艶若誰くそ
 唐土使つりよ——ま
 のころ月山あふやうきあつん
 時乃鼓とあし——うり
 彦舟漕く男の髪もこころ
 三日の糧乃月さのしこら
 仙走乃しんも今い休まて
 翁巢くふんもさ乃ま
 ちまてはき新瑞のそさよ

維駒
 蕪村
 田福
 約
 村
 福
 約
 村

新乃僧れ眼とら〜家
 ありぬ無中〜人〜徳が〜
 吾妻よりある奇き〜ゆふ
 不うつ〜刈らるほ〜な〜
 夕日斜ふ暮〜乃ゆ〜
 珠お珠の二り向口と住あて
 丹をを〜〜〜は法の鬼
 う〜とひ〜き指乃み〜ん
 小ま〜乃有乃乃時よ存子
 亡^辛妻のよと懐〜〜
 くらり〜えちる音の名い〜も

村 約 福 村 約 福 村 約 福 村 約 福 村

入車三

ひう〜と窓の揚をの綱盤
 宮ふ〜がう〜杖〜
 胡蘿蔔の花〜〜
 下福島乃銀あ〜
 入〜人端の是存〜
 隣〜〜
 舟料の来〜
 井も〜た傘と返〜
 月の宵枕〜僕と句〜
 菊合支六〜野のほ〜

福 約 村 福 約 村 福 約 村 福 約 村 福 約 村

頭

童

齒

豁

ハナリ

村

夏三夜様とやうに序純宣

約

二十年來供氷も

福

うけしそふ乃日あに老夫婦

村

遠よきくろく迎ふ稚子唱

約

脇起俳諧夏

卯花や夏俵はくろく乃乃里

維駒

山わくきひききも啼

道立

揺返し馬よ古約と歩踊

我則

名く同えく酒くく

我則

残信乃羅くある月乃若

几董

うく火島乃舟もなろう

執筆

回くく満の中乃ぬくけ

駒

聞もはくしや一尼の耳

立

次乃同のま一火既消る

則

狸も射んとふうく

董

一ト谷ハミか維盛の子孫

立

くく埃くくもく

駒

年竹さる人際廻りのほがれ

董

徳雨降くくま腐危の於

則

ふくくに盛くく

駒

本陣 合羽とくろく 弁三郎
 月のおよぶるよる 州 枕
 いく田所 ちりよち 衛 晴く
 さしこころ 名きる 音乃 室おん
 再 遠る 重源 ころころ
 やせ馬 一 結 斗ころ
 ころころ 一 一 双六 乃 賽
 けいこう たぬ やちう 一 一 一
 夕月 の 一 一 一 乃 一
 猪乃 子 け 一 一 一 一 一
 白川 一 一 一 一 一 一

立 則 董 立 駒 則 董 立 駒 則 董 立 駒 則 董 立

又

餅米に 急ませし 一 一 一 一 一
 産 一 一 一 一 一 一 一
 脇 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 晴 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一

立 則 董 立 駒 則 董 立 駒 則 董 立 駒 則 董 立

春之部

蓬生於中兮

蕪村

一松一柏の影

移竹

一秋もあつた

太祇

周りよのけき

几圭

古歌中馬帽

青峨

を庭より

常の一期日寺

召波

うしろの庭

雨遠

よの庭

雀英

人目をきかぬ

竹波

粥杖中梨重乃五人

羅川

三つ

蕪村

幽徑

詩もたふ

几董

梅もたふ

無腸

笑う

春爾

百世

嵐山

星

召波

あつ

維駒

あつ

成文

あつ

成文

旅中吟

貝塚乃町へ這入の夕やう月 道立

さき白上酌をのりまや併月 春波

十文たてうしよしよしのねむる月 百地

まの月鶴裂たのくまをけり 南部 素郷

まろくしよし

少山乃解きとくや窓の内 赤里

庭下く音や余を乃岸の傍 召波

岸追ふや移生たのり 田福

西のまろくしよしよしの梅をえり

荒をてしよしよしの梅をえり

よまろくしよしよしの梅をえり 蕪村

鶯の子乃音をのりまや併月 維駒

まろくしよしよしの梅をえり 几董

行旅

まろくしよしよしの梅をえり 蓼太

放馬たてうしよしの梅をえり 阿岐 臥央

うしろよりあゝの追くる 大魯

影りや那の月をえり 嘯山

岨磯

垣の芽乃袖口より 竿秋

誰くやたを返りて 我剛

日さしりや言遊くもつける乃ち
さしりやもる乃後ふるまう乃水
隣山中山ねう中もさううら
也如 召彼 几童

初午二句

夕川牛や夕田塚乃鶴の聲
初午や柳の午より小豆や
尾陽 蕪村 也

二月堂

夕しつゝの河邊りさる昔乃さ
大佛乃柱く家やまの河
侯の子々風の名も入や凡中
いづのちり月もささる三豆山
蝶美 二柳 肯原 維駒

八庫 八

漢舟とくく吹たりりさるけ
遠園より向まももれし
私彼女乃懐きし
夕くれよ尸合せさる悔う那
流木よりより亭さよ怪か
よのよや夏短ふしよの弱り
旅やう帰る家あ終の日の序
つげろや同いさけある小まき京
まよりさる乃群さるもさる葦うさ
入口ねや葦踏ふる路もあり

浪元 舊国 女 佳棠 文皮 移竹 太祇 蕪村 塘雨 湖岳

休若のまやかしとて海のふじりき 舞岡
 乾休若やゆらろくしと休く家 川越 麥鴉
 双鳥一先作 咲山のさきあり 麥鴉
 其枝一のこん乃雪の着り非 社口
 祈思
 子よとて古今のらとや休乃也 維駒
 るときさるや乃華やもの心 湖柳
 雨うひひく老本の休や花よき 大石 士巧
 桃山懐古
 とみろせいのそんとて休と休乃花 道立
 清き休よさる 休と休乃花 徳野

五車九

新汲のや 春襟を裁きし中のみ家 几董
 紫乃手にあけられくろくろく 几董
 くもとつりもくもくたのや 几董
 心もさる 几董
 は然の休ねものまやね乃花 蕪村
 上巳
 たつらひれ振すてありや歌の鼻 蕪村
 雪信う屏風もくくつ歌より 几董
 歌乃妻あきの内侍 幾董 召波
 雨意
 白ゆり十方くれ乃らくく 青原
 入月の上き 花より 重厚

男とてちりや梅乃さる木の向 江戸 陽子
梅三日四日をさや 仙臺 完山
山にのり人美し 維駒

南都

花のさる鹿や月さる 自笑
棒突にさる 太祇
つま 青峨

四十のり人三里 几董
二日笑花 雑庵
新 依共
ほ 不知

八車十

笑 江戸 一音
自 卧央
く 佳則
ほ 百池
誰 鉄僧
年 正巴

十九 正巴

笑 几董
中 毛條
後 自珍

よき乃そ音くふりぬれ花とつれたり

雪居

養在深閑人未識

川よきと鏡よりうらむ心くわたりけ

成美 江戸

まろわぬ辭中の詩より尋らうん

几董

ゆきまややまのたて琵琶紅抱ころ

蕪村

まづ情一む人やはるむとけりむらり

召波

花下に露白くも春を惜む

蕪村

紙や鏝布舞より一尾花を捻り

蕪村

夏之部

ころもく一先居るうらうら

移竹

酒はくの勝をさるね更衣

暁臺 尾陽

白うねね情よ背中ふおまん

蓼太

まをと惜むん乃わたり文衣

櫛良 いせ

紀法やまの木の蔭くま衣

百地

つるつるも海をねん

古芥の月今に流あり子規

青原

あひひまのふさふさ社籠

太祇

けしきれ通存の花ハ扇か

青峩

ふゆりもらるるま布糸の子規

維駒

曉乃 趨女々吐血わきま 召波

あふくくあふくきくわく

忠念のね女をせしあききき 蕪村

けくきん時を待ての糸 几董

よつの子を悔くを半か 大石 士川

給着くをりきく僕うか 菱湖

待宵の力に心色中 絹裕 定雅

短衣中いぬ路くるきく拍子 蕪村

くくくか鏡関への又くくく 之兮

歌はる

経衣中 如飛の白ひの胸うれ 几董

寐いそまの慟とほくくく 銀獅

一和二天坂をうりきみみひか 江戸 春武

ほくくか慟子透くくく 呂波

橋中 慟くく 老二人 田福

坂屋とあかぬ年くく 大魯

提てり牡丹ゆきく 春坡

懐舊

牡丹折し又う怒とくく 大魯

房と危乃ほくく 天乃一方に 蕪村

鳥散餘花落

うたつくく色中くく 几董

杉扇の葉に懐く鳥や燕子花 嵐山
 蛇尾を驚く崖乃こつ葉が 維駒
 嵐山松の四月とありにぐるも 自居
 乃其にちつひ冬乃轍う水 隨古
 しくこれハ胡蝶お虫夏乃州 登舟
 ゆりの心くもねつた巻う水 成文
 こつあつるおと振う田うこ水 几圭
 依を乃こつりみこひひり 几圭
 小舟とやうの苗とるこつて 几圭
 けりやうららけつるひひりや田桂舟 曉臺
 芥子花や腕の衣乃ひひりこ 也好

又車十三

夕そやみふふあつる夏の秋 楚秋
 麦秋乃葉外あつる金仏縁 几童
 六方丈石 几童
 おりりくあつるつへ鳩牛 慄夢
 急らぬあつる心こつつり 太紙
 鳩牛君うらつる心こつつり 雁宍
 燕滴にこつておつる巻る鳩牛 蕪村
 洛ふき葉とるこつて 蕪村
 昔麦あつるこつておつる穂麦水 蕪村

あけをよめし園のさけや長経 雀英
夏のつらやあまふ人きく成にけり 旨原

有感

生きてきふひよのまを初燕子 几董
羊子海うりふくる岸を水 維駒
岸や梅と新ふふさそつら 吞獅
秋あ乃うしうとるそ田桂水 雷夫
よ乙女や先ひひやうと庭の土 超波

郊外

都へ遠りいつもなつたも田代 雁宕
物同へて出てきつる故きうふ 如瑟

春備やぬあつしつらふよ故き水 湖陸
も柳や女のすあふ故乃 菜 太祇
も柳や眉あつらふ美人うふ 蕪村

烟雨り青カッレう巴
黄りナニスト

青うつし色とくもあふ黄柳水 几董
夏の月半陽乃故のうら衣 召波
を泳ぐ兵舟や夏つ月 蕪村
さすくわや之縁うらふすあひえ 大魯
らくわやあをあつらふのうら舟 竿秋
過宵はあつらふ

たうへん熱うーあふしう鷲水
道立
旧乃ふもとを引きし常うふ
維駒
飛ふ常地うつけても可電ふ水
移竹
銀うのふたにふりあつてはる水
管鳥

津田来泊

飛常周のちくーくひてたり
明岸
船の割と逢るはる水
透史
風まゝの森乃本流やうのき
文政
脊戸口に砥け流る首蒲水
又付
うれふ阜にのりあふ
巨洲

思いこちの晴うゆる水
蕪村

よ敷ーあふしうふあふし
義仲寺僧
都乃あふしあふし信の鳥あふし
沂風
正まう又とこころーくうあ
正巴
うけあ乃鷲とあふしはる水
召波
祇園寺中明丸あふし新と
超波
周うりふたは流さあふし疎うふ
也有
涼居て園ー幾平は女水
召波
才子はるはるうへん遊あふし
維駒
人皆若き熱

涼ーあふしあふしあふし
几董
聴乃中あふしあふしあふし
あふしあふしあふし

相対本の栞ふらりし一やう筆
 蓮り一誰小舟借ふるりや又
 芝草よりほきくこせ蓮乃雨
 じ 親よ志乃らんよと行日あ
 狗舟りし舟伊と重せて蓮んか
 讀李斯傳
 是岩
 如菊
 杉月
 召波
 維駒

剛ふる肩も寄らふ蕭々如
 都りくる神工ゆつよ固く
 油流二句
 汗入る身と佛体とる在か
 床涼笠着連歌のむらさき
 几董
 我則
 燕村

葛水や願ふ一むの音よし
 首ふやううつるまをを丸くよ
 桐園存るる
 維明わ高の行こう
 筆心乃一庵もさうのり
 郊か
 道立
 几董

夏にくれんものけし
 ちよの花野り
 らんふふふふふふふふ
 重名
 五せ

脇起俳諧秋

春泥舎召波

栗に施す蘭よ付く嵐そく分り
 三度報おし菴乃ふ永キ花
 老うる海乃青字も切なり
 鳥乃中を驚乃らうらうら
 鷹うりり序先もさうらうら
 初雪ふちり序先もさうらうら
 羽辺うり序先もさうらうら
 むしんゆり一従者おたり
 うら強心同車の手をうた抱き

董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒

このしりし青れ月のおく
 片らゆへやこ故まらる秋乃風
 古美うらとりふ春うらうら
 翠丸うらとり櫛子れふふら
 法師とふづらにわ寺の児
 活切し係書代と終ら虫拂
 高年竹の鼓徐うらうら
 茶ひらむら老社うまやうら
 尸ゆらうらとねらぬら旅
 石うらうらとふはたうらうら
 梅うらうらと冷こけしほら

董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒

新病と記ふしとくもるなり
 沈香柱て懼ふ并 鴨
 新のちる女ころのひとくに
 廊乃乃月日こそふれ男也
 いさゝの程も切まるそ枝の庭
 赤くけひそくく哭ノ翁丸
 新きくふ井乃皮も骨負也
 ふくもあわくくみそつれふふ
 袖戸のく糸酒出して振舞也
 寺乃終月の云事ふ骨折也
 けくあふひよ足枝の枝くも

鴨 董 鴨 董 鴨 董 鴨 董 鴨 董

とも入芝居乃果一 古市 鴨
 驚くうこんの駒をあらつふ
 官位くく一 柳ねくく
 別殿と花乃林も後くあし
 きらくまきく 遠き日とけ 鴨

其二

白馬きふあまうくひや新の枝
 千ま乃むけあもあふ
 ひまりのも衣うらる月まで
 衣をくりあ舟とけくり

維鴨 百池 鐵僧

たぐらうはらうきわしるき
藤よりまじむ鳥帽子よりきぬ
翔日乃やうりひらうつ
わらうき市の菜柳
望人よ女ころろ追うけて
熱よ病もふくまじり
聲よまじり仁王頭と備めん
日毎乃母の中ふ水上際す
うらうら行ぬの小まに船破り
堺乃住居もあうりあま
高よま婦うらふ仕まじり
池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒

五章
六九

髪よまじりけるまじり育月
風もあまうつらうのまじり
やの口乃あ入のまじりよ
らうら行ぬのと鴨鴉のまじり
高ま舞人乃基や神あまき
うらうら抱ままじり膝まら
やうらまじりまじり責るまじり
禿ま毛くまじり翁まじりあまの月
りまじりまじりまじり
三聲ま啼まじりマシラ猿のまじり
やまじりまじりマシラ猿乃訪
駒 僧 池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒

かんきりきぬらし色小風名美
 清良君乃くまふくまふくまふ
 ちりり白りうくはちやりの日
 横座付し牛と遊りて
 天王乃くまふくまふくまふと肥て
 ぬりほつひ日おこりく
 ぬりうくまふくまふくまふ
 入りのうたれ埃けりくた
 花守りくまふくまふくまふ
 足はくまふくまふくまふ

池 僧 駒 池 駒 僧 池 駒 僧 池

秋之部

起よふお格便の糸うりうけむ
 ちりり月のうくまふくまふくまふ
 水屋りくまふくまふくまふ
 新屋根をくまふくまふくまふ
 ちりりくまふくまふくまふ
 病起
 懶くく鬼くまふくまふくまふ
 角力たのまをひくまふくまふ
 冬二日くまふくまふくまふ

青我 花義 呂波 千代尼 起波 道立 蕪村 也好 一差

彩ぬ切菴乃後了ふふの他
傾城子腕えせり相撲丸
几董
松化

市中

隙子や夕るくねてねくふ
火魯

う叩くましおぬにまき踏
召波

細腰乃法作下ろ不踊うふ
蕪村

暹ろり八千代廻りし一た
蕪国

笑てふれし墓のむりおま乃毛
菱湖

ふふふふふふふふふふふ
湖行

由井乃侯つふ

おまゆ信やううふ候乃料
太極

張を川ふみふ後をくくく
田梅

徳くあふふふふふふふ
二貞

くくくの溜りてはゆる若面夏の草
蕪村

ふふふのふふ武ふふふふ
雁宕

ふふふやうくくく徳ふたふふ
自笑

八呷中律屋くし乃うけし
蕪村

紀路くく下りけねとけ雁孤
蕪村

旅中

川岸や馬子入くくく乃音
太極

霧くくくく先や馬の尻
几董

こくたご丹波の船乃片行か
維駒

衣うのけりも酒乃小童うぬ 大石 士喬
 海跡の一陸きり 蕎麥乃心 雅因
 久名とよもて 後秩の月花 田福
 名月や下戸に建てる藏引ん 戸 多虫
 三平きり
 院くのちね 夜中くし乃月 雁宮
 名月や兔の糞乃あうら 超波
 名月のゆき 教日やいせり 百池
 今も 管島
 うらぶとくに月花 柳良
 良夜

名月やさるも 嵐山
 家童の金ふり 鶴英
 会兵で傾城買つ 也世
 一つも 春坡
 老懐
 去年より又 蕪村
 雑踏の月の明り 青蘿
 野人皆 維駒
 箱入 成文
 きり 二柳
 いふりふ 二柳

梅の葉は入るもつゆのしづか
 月溪
 内中やふらふらと
 臥央
 拾ひあつた肩に
 女まを
 喰うもはらうと
 来雨
 雨の中九日病起
 百池
 試みる結乃きよにのちり
 鎌僧
 鼻くちかぬのこ
 几圭
 白菊やこつらふのうづり
 浪花
 紅涯
 高砂
 布舟
 柿みまきく竹刻ひき
 佳棠

五車二十三

ふくくしてみかにはあつた胡蝶水
 紫
 鹿十
 市小あま火ふせの札や秋の風
 維野
 夏とらあし遠れい房ふ群ふ
 也
 遊仁和寺
 君しつちふふのこもしとあま
 几董
 掃音もせめて淋し夕り
 蓼太
 白らうとまふもれりてらう
 嵐山
 谷あま夕りともさうちの犬
 鳥西
 あふらふくれあふらふあま
 橘仙
 三原山あふれあふらふあま
 瓦全
 三原山あふらふあふらふあま
 曉臺

探訪とゆて

撰出しし林き色やも梧桐

鼓舌

酒ふたり餘に本橋の穂並外

左海 吳逸

かゞしと外田よある鳴る子う家

芭蕉庵下 松宗

明けいやもたたまのゆつつりむ

召波

稚子の二人親よよ夜まか

旨原

雨ゆ乃日和りみまる夜まか

大魯

因雨の徳うよ合とたたまか

魚官

花とささも小冠者外り水枕

蕪村

蕪ゆとと知信菴りとと

笑の飛くとときししし九月懈 曉臺

入車 二十四

そらの杖も子ひ子儀杖中ふ 臥央

四五乃きぬ裁終と皆乃杖 湖岳

ゆ林や蹴後の塔とまな木葉 委水

稚業のまれしやあよ乃雪お 維駒

ぬくりわる

本骨結りていさしん杖ひり 蕪村

九月の須戸のうつりし 几董

そらしとまあしこうも須戸の杖 几董

ちちにねき會や九月を 雁名

閑居

小網買し冬の夜とゆ教あらん 几董

冬之部

雪乃乃一のひかりきや夕一これ
初一これひかりとふ通リなり
そのひかり儒一淋き羽織りか
そのひかりひかり乃言確か
そのひかり南一傳きやう岸

某簷

おろややとくやうく露乃系
傘一おとさあつたる十石小
その悪の笑にありしる十石小
門前のおの梅てある十石小

五車 二十五

鹿登つて人ひつし冬ころも
旅とふるもそけ思事や冬
冬舞の光風乃眼と村

負郭

四ッ谷う馬糞のつく枯所か
又或日扇きひゆこれせう
やらわやふ乃家法の葦と刈
雪乃系うよふきも老くこれなり
系のも中ほむ者うむ一これ
黄守りや系乃うく系の本

氷乃名出

夕川ふらふらたりの歌々鳥うふ
 降りのにわたるその日よりか
 こころやほのよまきううと
 名落のまきとうち破るぬまゆ
 小坂殿ろそり籠れそあはれうか
 一雲やうろうと巻のけしきか
 初まやうふ硫と振る 堂 鑑
 信法と
 ありこころ寝もやめくち宮のむす
 待氷の後恵うる江森えんか
 是連に別まき浦のらうりか
 几董
 渡牛
 社典
 熊三
 鶴汀
 也好
 秋来
 蝶夢
 乙二
 東瓦
 舞
 白石

四五羽立てしそらむりくそ洲の海 道立
 間とついで沖のらうりやをうり星 几董
 けしきううとあはれ川細き寶蒲団 無腸
 膏のうり風もあはれ古 蒲団 百池
 うつと大とせ下にともう清り水 我則
 接るもも一葉ふゆり桐大桶 心頭
 尾にありし時
 髪とゆふふれ膝のて巨徒か 千代尼
 山むの里とやしてこころりか 廣島 風律
 みるのりやとけし氷る志れも 浪花 一嵐
 凍やしぬく結ひつる存乃も 伏水 穹喬

馬蹄今らりとい雪の滴をみ 成文
 雪の中も人きふりのふ成にけり 甫尺
 との世ふや人名通る四うささ 越前 梨一
 こころし雪にすけり夕ぐしり 蘭更
 三つふ岩ころしけり雪のよ 銀獅
 美人とてきこしきと雪のま 之兮
 雪の産にあうけても雪帯り か? 佛仙
 雪のしきりしきりしきり カチツクリ
 かくそくもいふなりし 五車
 初雪のきりしきりし 几董
 雪の中 燕村

古枝と鶉喰れを雪乃くれ 其成
 流るる中地より蹴りけり馬盥 仙臺 奴官
 雪りしたに氷まる雪と集り 大魯
 古観鑑 几董
 純きよの先氷るる雪 几董
 玉鏡之 燕山 茂堂
 雪の中 鶉 古貢
 のきや葱ほふ川を踏 暮蓼
 ころきれぬ 春香
 氷の雪入日融り 魚赤
 鶉 魚赤

羽とあやや小島のねよとあれや 斗文

右五

くもゆるし 柳あつちや 宵月夜 蕪村

さし月にてるひりる若乃 誓古水 子曳

とあるまはれ 蒲園とあつちよまよ水 大石 守明

南宗の負しよきや 夕木よとら 丹波 月溪

門くくして 丘上りたり 夕まよとら 仙魯

けまらりし 衣 傍れよとら 舊国

つきんふしきくありぬ 所 敷 宮津 路景

旅人へ 積むしひたり 舟よき 佳棠

あつちよとら 西へとたりとら 抑 佳則

五車 二八

このへやあやあつちよとら 細代寺 士川

中

ゆきとせきひくく せしよとら 通助

あつちよとら せしよとら 忘 召岐

年とせしよ 肯念者とら せしよとら 青我

臈八や 和尚 濁くねひとら 雁宕

とらとら せしよ 二人の 親乃 謀とら 佐州 米屋

ゆきとせき 又 せしよとら せしよとら 拂 維駒

争つたり せしよとら 年とら 燭半 文梁

判こころの せしよとら せしよとら 太祇

ゆきとせきの 女とら 年とら せしよとら 柳 蕪村

除夜遊青樓

きくくんやりてうとと集ひたり
あつらき月の撫や一人三十日
几董 移竹

脇起俳諧冬

きくくもて五車のみ右にうら
ひよりきくわい一鏡うつ月
郎ふ何焚やうん燈
流乃う酒のうらうと
枝代于一斤うととさくら
物乃を帯り先口と利ク
維駒 鑊僧 卧央 蕪村 百池

新宅のうらとほつたてうら池
くくくらきくくも物の翹
裂やまふくくもぬのた終
まと集ひたり右にうら
ちらうとてうら年の伏ん
小并結 ぬく馬鳴うん
あししも宿をとまはさる月
くくく酒を胸と病ふ
小あひまのつとせに旅る
蕪村あふ日れとくくく
及ちあふ五車のうらとさ
也好 春坡 正巴 之兮 道立 我則 自笑 佳棠 湖柳 湖岳 几董

くろやうらうらにや乃庵 田福

右一巡捨香

鏡よりうらうらの影や枯尾より
又うらやうらうらとくしは事なり

又うらやうらうらとくしは事なり 維駒

とちわはあのもちし開白道長とほ成る
乃序きつとせはひに因くの受れ
より弁本瓦石の敷引舟車ふ積る
運びつと全根跡むれ七言とたしむの巻
細のくろく子号の俣威義具足に梵音楊枝
の聲と習字綴を編一舞人衆く糸竹管流の曲
とくしは事なり天子まきしあうらうらにふ
る本とくしは事なりとくしは事なり結核の
ちうらやうらとくしは事なりとくしは事なり
字よみ編の古春返た士に遠訓を遣う息
紙駒志願とくしは事なり因くの佛流者流の句と

拾ひ居るの旧蔵書等の所々をあつらひて其の尚書の
初及よ句とをある所の良材をなるとして一集
と撰書せんとたり予もその書を採りて其の
微力と爲す撰成す所を先人の牌前に修むるの
功徳見佛圓法の結縁あるべし且太紙移竹嵩山
乃侍とけり故書の古く再集中ふ出宛して
凡月花を乃乃とて祝詞をとりて是自地
平等乃追善をばりてその書を撰書す

春夜樓晋明書

天明三卯歲十一月

甚蕪村七部集後編 春夜樓晋明著 近刻

文化六年己巳正月出版

中五賣坂河原入所

浦井徳右衛門

室町一丁目下所

平野屋善吉

寺町二丁目下所

橋屋治之衛

三條寺町西上入所

河南儀之衛

皇都
書肆

